

課題No.	総合課題-2	課題名	安定供給できるユズ産地の維持・拡大
対象	JA 高知市土佐山柚子生産組合	実施期間	平成29～31年

課題設定の背景とねらい

【背景】

JA 高知市土佐山柚子生産組合は、栽培技術の向上や優良系統選抜などに生産組合が一丸となって取り組み、青果出荷販売を中心として販売額を伸ばしてきた。現在は、青果販売は減少したものの、大手取引先への酢玉の販売が堅調なことから、平成27年産で生産者201戸、栽培面積59ha、生産量1,072t、1億3千万円を超える産地に成長した。

しかし、近年、老木化や隔年結果が激しく、安定した生産が難しくなっている。加えて、生産者の平均年齢が65歳と高齢化もすすんでおり、労働力、担い手の不足が顕著になってきた。また、生産者の大半が兼業農家で栽培面積が少ないうえ青果の出荷が少なく、ユズだけでは収益があがらず農業経営が不安定である。さらに、幹腐病や黒点病が多発し、収量・品質が低下している。

そこで、上記の問題点を克服するために、昨年度、作成された高知市ユズ産地構造改革計画に基づき、取引先とのパートナーシップを堅持するための原材料の安定供給や中山間複合経営拠点として位置づけられた夢産地とさやま開発公社との連携等による産地を支える生産基盤の体制の構築を行う。

【ねらい】

大口取引先に原材料を安定供給できるユズ産地の維持・拡大

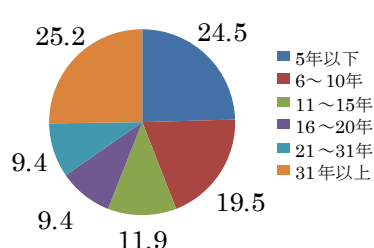
対象の概要と問題点及びあるべき姿

1 対象の概要・問題点

年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
生産量(t)	955	632	1,072	1,087	732
面積(ha)	56	57	59	59	60
生産戸数(戸)	188	188	201	201	204

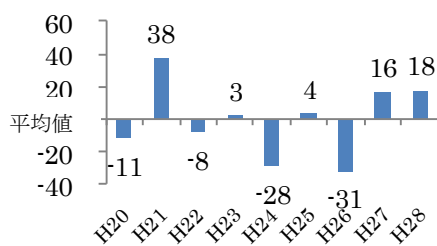
<問題点>

- ・老木樹の増加や隔年結果等により生産量が不安定。
- ・高齢化による労働力、担い手不足により産地維持が脆弱。
- ・酢玉中心の生産となり収益があがらず農業経営が不安定。



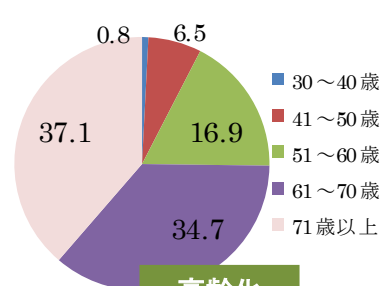
老木化

樹齢31年以上の樹が25%以上



隔年結果の顕在化

平均値と年次増減



高齢化

71歳以上が4割近く

2 目標年次の姿（目指すべき姿）

- ・大口取引先とのパートナーシップを堅持するため、安定的に原材料を供給出来る産地となる。
- ・安定生産のために、新植・改植による生産面積の拡大と隔年結果を是正する栽培技術の向上が図れる。
- ・生産基盤を維持するため、担い手の確保・育成と労働力補完の仕組みづくりができる。
- ・省力化を図りながら、高品質生産（青果・酢玉A出荷の割合の増）を行う。（棘無しユズの導入等を含む）

普及事項	取り組み期間と到達目標				
	評価項目	実施前	H29 年度	H30 年度	H31 年度
1 安定生産	面積 (ha)	59	61 (60)	62	63
	生産量(t)	1,087	1,000 (732)	1,050	1,100
	販売額	1.3 億円※	1.4 億 (1.3 億円)	1.6 億円	1.9 億円
(1) 新植・改植による生産面積の拡大	新植・改植面積(ha 毎年)	2.25	2.5 (3.3)	2.5	2.5
(2) 隔年結果の是正 ・ 兼業農家等への栽培管理の徹底	現地検討会 (回)	3	6 (6)	6	6
2 生産基盤の維持					
(1) 担い手の確保・育成 ・ 産地提案型の受入れ体制づくりの支援	新規就農者数	0	0	1	2
	産地提案書作成	なし	検討 (作成)	運用	見直し
	指導農業士等 研修受け皿数	0	1 (2)	3	3
(2) 労働力の確保 ・ JA 無料職業紹介所等のユズ 農作業受託組織の活用	活用農家戸数	10	15 (7)	20	25
3 収益性の高いユズづくり					
(1) 省力化技術の確立 ・ 省防除 14 回⇒9 回／年の技術確立。	技術の確立と 普及	未確立	確立 (未確立)	確立	普及戸数 10 戸
(2) 高品質の推進 ・ 青果・酢玉 A 出荷への誘導	青果出荷農家 数(戸)	17	22 (17)	24	26
	酢玉 A 生産割 合 (%)	15	20 (14)	20	25
・ 棘無しユズの導入	母樹用苗生産 本数	生育調査	生育品質 調査 (生育調査)	品質調査	母樹用苗 20 本

※販売額は平成 29 年度は確定できていない

課 題 名	安定供給できるユズ産地の維持・拡大
対 象	J A 高知市土佐山柚子生産組合
関連事業名	果樹経営支援対策事業、農業労働力確保対策事業、新規就農総合対策事業

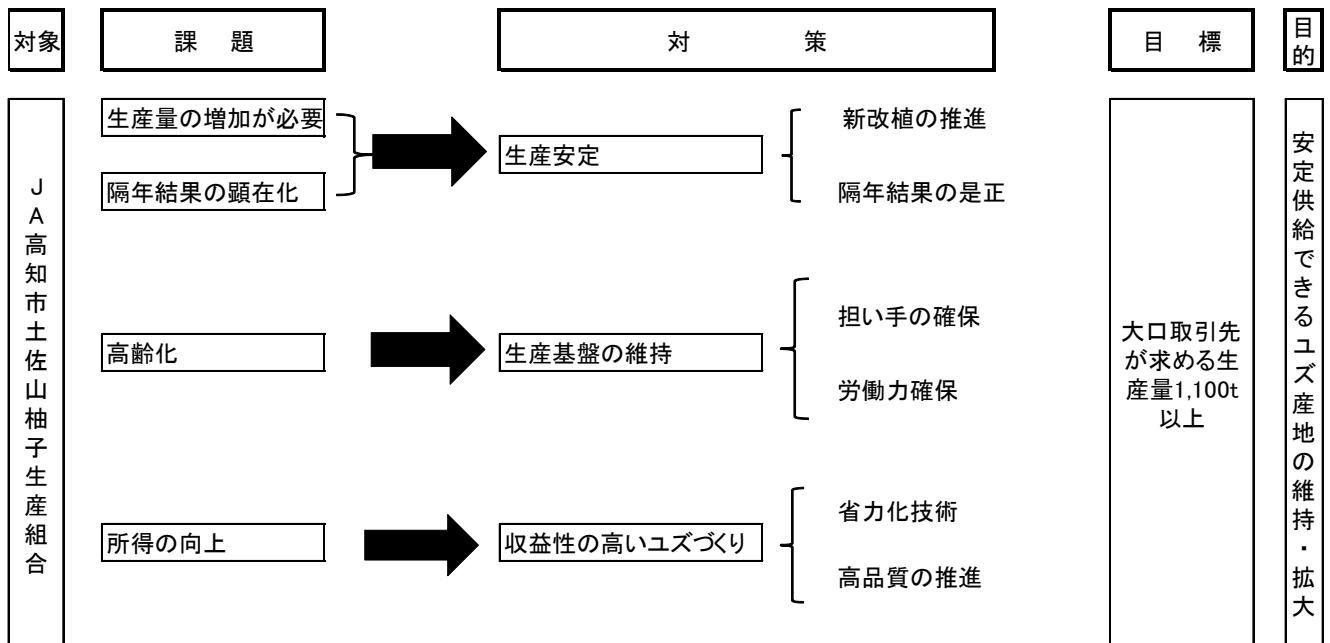
連携する関係機関との役割

●推進方向の検討と役割

J A 高知市、高知市土佐山地域振興課、（財）夢産地とさやま開発公社、高知県青果物基金協会

●生産技術・担い手・経営関係課題

J A 高知市、高知市土佐山地域振興課、高知県園芸連、環境農業推進課、産地・流通支援課、農業技術センター果樹試験場、病虫害防除所



課題 No	総合課題－2	課題名	安定供給できるユズ産地の維持・拡大
対象	JA 高知市土佐山柚子生産組合	担当・チーム員	○伊藤、森永、小笠原、小西

〈これまでの進捗状況〉

これまで、新植・改植をすすめてきて、わずかではあるが、栽培面積は微増している。近年、隔年結果が激しく生産が不安定なうえ、天候不順などで十分な栽培管理が出来にくい状況で青果出荷が減少してきている。そこで、農薬散布回数を減らす省力化を図りながら、青果・酢玉Aを増加させる技術で農業所得の向上に取り組んできたが確立までには至っていない。

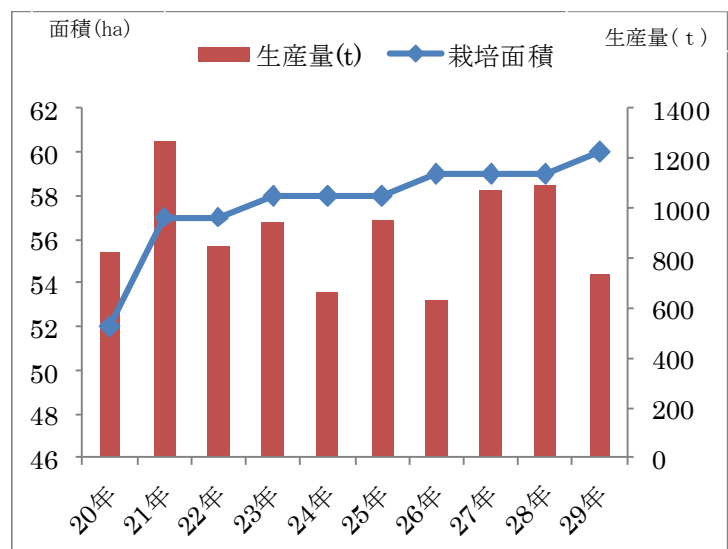
一方、平成28年度に夢産地とさやま開発公社が中山間複合経営拠点として位置づけられ、ユズも含めた産地を支える体制が強化されつつある。

〈対象の概要〉

高知市土佐山地区でのユズの生産量は平成29年産で732tである。(生産者204戸、栽培面積60ha)

〈現状の課題と問題点〉

この地区では平成20年より隔年結果が激しく、大口の取引先への安定供給ができていない。また、高樹齢化と高齢化が進んでおり、樹の若返り、担い手の確保・育成と労働力確保など生産基盤の維持が求められている。そして、青果・酢玉A出荷を目指した農業経営の安定化も求められている。



〈あるべき姿と推進方向〉

- ・大口取引先とのパートナーシップを堅持するため、安定的に供給出来る産地。
→新植・改植による生産面積の拡大。
- ・安定生産のために、隔年結果を是正する栽培技術の向上。
→定期的な現地検討会や技術情報誌等による安定生産のための栽培技術情報の提供
- ・担い手の確保・育成と労働力確保による生産基盤の維持。
→産地提案型の研修受入体制づくりと担い手確保対策活動の支援、JA 無料職業紹介所の活用や農作業受託の体制づくり。
- ・収益性の高いユズづくりによる経営安定。
→省防除技術の確立や棘無しユズの導入による省力化技術の確立及び高品質の推進。

普及事項		1 安定生産 (1) 新植・改植による生産面積の拡大 優良系統の導入 (2) 隔年結果を是正する栽培管理の徹底 隔年結果の是正			2 生産基盤の維持 (1) 担い手の確保・育成 産地提案型の受入れ体制づくりの支援 (2) 労働力の確保 JA 無料職業紹介所等のユズ農作業受託組織の活用		
		評価指標	現状	目標	評価指標	現状	目標
		生産量(t)	732	1,050	(1)新規就農者数	0	1
		販売額	1.3 億	1.6 億円	産地提案書作成	作成	運用
		(1)新植・改植面積	円	2.5ha	指導農業士	2	3
		(2)現地検討会等	3.3ha	6	(2)活用農家戸数	7	20
		(回)	6				
担当		伊藤、森永			小笠原、小西、伊藤、森永		
時期		計画			計画		
第1 四半期	4	(1)果樹経営支援事業活用による新植・改植の誘導・事業申請支援(4～6月)			(1)年間活動計画協議		
	5	新植園の幼木調査(チーム会 4～6月)			(役員会、チーム会 4～6月)		
第2 四半期	6	(2)技術情報誌の作成・配布(4～6月)			指導農業士候補の洗い出し、検討(4～6月)		
	7	(1)技術情報誌の作成・配布(7～9月)			(2)労働力確保対策の計画検討(チーム会、4月)		
第3 四半期	8	果樹経営支援事業活用による新植・改植の誘導・事業申請支援(7～9月)			共同防除への働きかけ(役員会 4～6月)		
	9	(2)現地検討会(摘果の講習会等)(7～9月)			共同防除の実施支援(6月)		
第4 四半期	10	(1)技術情報誌の作成・配布(10～12月)			(1)産地提案書変更(案)の申請(担い手協議 8月)		
	11	果樹経営支援事業活用による新植・改植の誘導・事業申請支援(10～12月)			指導農業士申請支援(担い手協議 7月)		
第5 四半期	12	(2)収量性把握による隔年結果の原因調査(10～12月)			担い手募集活動(就農相談会 8月)		
	1	(1)技術情報誌の作成・配布(1～3月)			(2)ユズヘルパーの募集		
第6 四半期	2	果樹経営支援事業活用による新植・改植の誘導・事業申請支援(1～3月)			(ユズだより、広報誌、チラシ配布 9月)		
	3	(1)就農相談会への参加(12月)			(1)就農相談会への参加(12月)		
第7 四半期	4	担い手募集活動の結果報告			担い手募集活動の結果報告		
	5	(役員会 12月)			(役員会 12月)		
第8 四半期	6	親元就農予定者への情報提供(12月)			親元就農予定者への情報提供(12月)		
	7	(2)ユズヘルパーの募集(チラシ配布 10～11月)			(2)ユズヘルパーの募集(チラシ配布 10～11月)		
第9 四半期	8	共同防除の実施支援(10月)			共同防除の実施支援(10月)		
	9	(1)担い手募集活動の結果報告(ユズチーム会 1月)			(1)担い手募集活動の結果報告(ユズチーム会 1月)		
第10 四半期	10	親元就農予定者への支援(1～3月)			親元就農予定者への支援(1～3月)		
	11						

期	3月	幹腐病等防除対策喚起(チーム会 1～3月) (2)せん定講習会 2回(1～2月) (上級者向けと兼業農家向け) 苗植え付け講習会(3月)	(2)剪定作業の受託組織「ゆずバトン隊」編成 (チーム会、役員会 1月) 剪定作業の受託組織「ゆずバトン隊」実施支援(2～3月)
---	----	---	--

年度シートその2

普及事項	3 収益性の高いユズづくり (1)省力化技術の確立 (2)高品質の推進					
	評価指標	現状	目標	評価指標	現状	目標
	(1)技術の確立と普及 (2)青果出荷農家数 酢玉A生産割合(%) 棘無しユズ	未確立 17 14 生育調査	確立 24 20 品質調査			
担当	伊藤、森永					
時期	計画			計画		
第1 四半期	4 ～ 6月	(1)航空防除(ドローン等)の防除検討(4月) 省力化実証ほの年間スケジュールの検討及び実践策(そうか病・黒点病対策 4～5月) (2)生育状況の把握と作柄予測(巡回調査 4～6月) (2)黒点病等の防除対策喚起(技術情報誌、個別巡回 4～6月) 棘無しユズ生育調査及び防除(4～6月)				
第2 四半期	7 ～ 9月	(1)省力化実証ほ病虫害対策(ミカンハダニ、カイガラ ムシ対策 7月) (2)生育状況の把握と作柄を予測(巡回調査 7～9月) (2)黒点病等の防除対策喚起(技術情報誌、個別巡回 7～9月) (2)青果出荷の呼びかけ(技術情報誌、個別 7～9月)				
第3 四半期	10 ～	(1)省力化実証ほ病虫害対策(ミカンハダニ、カイガラムシ対策 12月) 省力化実証ほ、収穫調査と成績取りまとめ				

	12 月	省力化実証ほでの結果を部会へ報告 (2) 生育状況の把握と作柄の予測（巡回調査 10 月） (2) 棘無しユズ品質調査（10～11 月）	
第 4 四 半 期	1 ～ 3 月	(1) 省力化実証ほ（せん定、枯れ枝除去 3 月） (2) 棘無しユズ生育調査（2～3 月）	